

IV 今後の支援に向けた3調査結果の比較

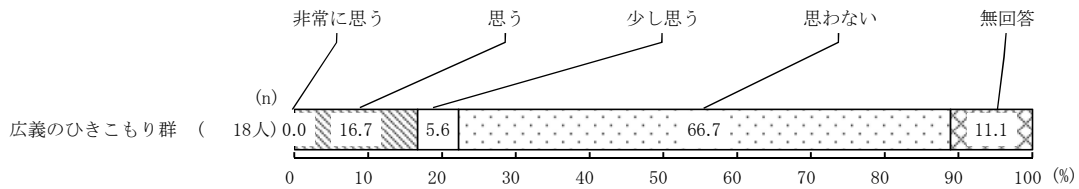
1 関係機関への相談意向

無作為アンケートで、現在の状態について関係機関に相談したいか聞いたところ、15歳～39歳で『思う（「非常に思う」＋「思う」＋「少し思う」）』が22.3%と相談意向が少ない傾向がみられた。一方で、40歳～59歳では『思う』が50.0%であり、半数は相談意向がある傾向がみられた。

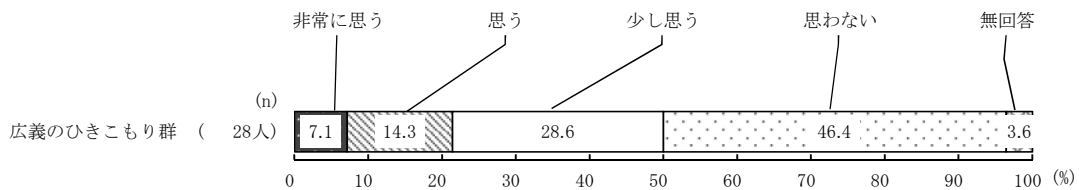
当事者アンケートでは、ひきこもり状態等を変えるために役立っていることとして「ひきこもりに関する相談窓口」が47.8%で最も多く、民生委員等アンケートでは、ひきこもり等の方へ必要な支援策で「支援・相談窓口の周知・PR」が55.4%で最も多かったことから、相談窓口の周知・PRが重要であることがうかがえる。

①無作為アンケート（Q21（現在の状態について関係機関への相談意向）再掲）

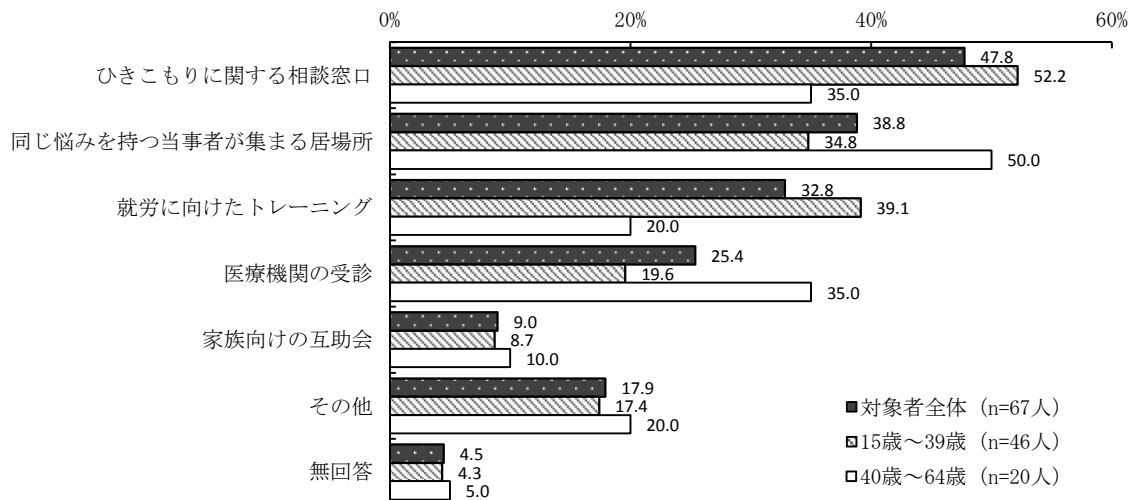
15歳～39歳



40歳～59歳



②当事者アンケート（Q17_2（ひきこもり状態等を変えるために役立っていること）再掲）



③民生委員等アンケート（（2）ひきこもり等の方への支援策 再掲）

